

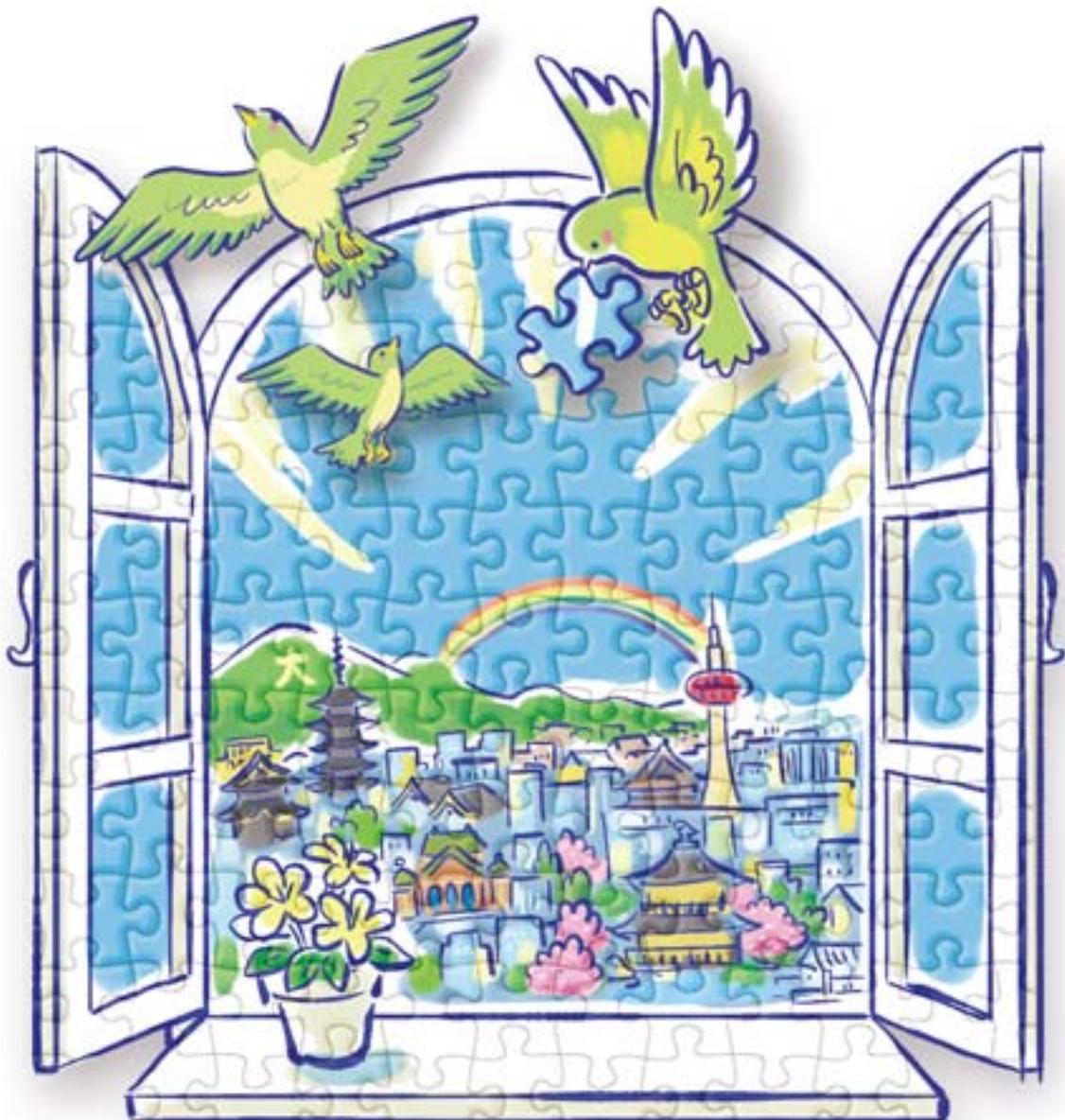
概要版

はばたけ未来へ!
みやこ

京プラン

京都市基本計画

平成23(2011)~32(2020)年度



京都市



京 はばたけ未来へ！ 京プランの (京都市基本計画) 策定に当たって

市民の皆様の京都への愛情、誇り、そしてたくさんの夢、希望。市会での審議を経て議決いただき策定した、このまちづくりの新たな基本計画には、市民の皆様のあふれる思いがぎっしり詰まっています。

今、わたしたちは、人口減少・少子高齢化、加速する地球温暖化など、これまで経験したことのない大きな変化に直面しています。こうした不透明感の強い混迷の時代だからこそ、市民の皆様と行政とが、京都のあるべき姿とその実現の方策、困難に立ち向かう行動を、しっかりと共有しなければなりません。

このため、計画の策定に当たっては、徹底した市民参加で取り組んで参りました。第1期の基本計画の総括をしっかりと行ったうえで、新進気鋭の若手研究者の方々に地域主権時代にふさわしい基本計画の在り方を根本から探究いただいたほか、市民1万2千人を対象としたアンケートの実施など、策定過程の早い段階から多くの市民の皆様に御意見、御提案をいただきました。

京都を愛する若者たち「未来の担い手・若者会議U35」からは、若者ならではの視点による提案をいただき、さらに意欲あふれる行動力により、多くの市民の皆様の御意見を集めていただきました。また、各行政区の基本計画の策定委員会をはじめ、170を超える関係団体・行政機関の皆様に説明し、御意見を伺いました。

そして、それらのすべてを受け止め、尾池和夫会長をはじめ各界各層の方々70名で構成する「京都市基本計画審議会」において、1年以上にわたって徹底した未来志向と戦略性を追求する、丹念で深い議論を重ねていただきました。

計画策定に御尽力いただきました皆様に心からお礼を申し上げます。

京都市長
かどかわ だいさく
門川 大作



こうしてできあがった新しい基本計画は、市民の皆様をはじめとしたさまざまな主体と行政とが夢と希望、危機感と責任を共有し、役割を分担し、共に汗して協働する、まさに「共汗型計画」です。そして、各政策分野の基本方針を示すにとどまらず、京都の強み、都市特性を踏まえた京都の未来像、それを実現するために優先的に取り組むべき重点戦略、さらには、基本計画を進めるための基盤となる行政経営の大綱を一体とした「戦略的な計画」あります。

さあ、いよいよ新たな京都の未来づくりのスタートです。
市民と行政の知恵と汗で練り上げた計画の、ひとつひとつの言葉に込められた多くの皆様の思い、未来への願いをしっかりと受け止め、これらを確実に実現しなければなりません。

この計画は、激動の時代の下での確かな現状認識に裏打ちされた10年間の京都の成長戦略といえるものです。同時に、わたしたちが希望と勇気を持って進むべき道筋を示す、未来へのシナリオです。

わたしは決意しています。このシナリオを手に、職員一丸となって市民生活の「今」を守るとともに、市民の皆様と共に汗して、生活者を基点に50年後、100年後も「日本に京都があつてよかった」、「京都に住んでてよかった」と実感していただける魅力あふれる京都を築いていくことを。

はばたけ未来へ！参加と協働であらゆる京都の力、「京都力」をいかんなく發揮し、地域主権時代をこの京都から共に切り拓いて参りましょう。

はばたけ未来へ！京プランの構成

(京都市基本計画)



計画の位置付け

05
ページ

- 京都市基本構想に基づく第2期の基本計画（計画期間は平成23(2011)年度から10年間）
- 単なる「行政計画」ではなく、市民と行政が共に汗を流して協働する「共汗型計画」
- 政策の優先順位を明確にし、目標への筋道を示す「戦略的な計画」



京都の未来像

都市経営の理念に基づき、10年後
以下の6つの未来像は、相互に密接

地球環境にく
豊かに調和

「環境共生と低 まち・京



計画の背景

06
ページ

第2期の基本計画を策定するに当たって、
とくに注目すべき社会経済情勢

- ① 人口減少と少子高齢化
- ② 地球温暖化の加速
- ③ グローバル化の進展
- ④ 低経済成長と厳しい京都市財政



都市経営の理念

07
ページ

今後10年間にわたって、京都市の都市政策を
進めていくうえでの基本となる考え方

生活者を基点に、
参加と協働で地域主権時代を切り拓く

いのちとくらしを守り、
安心・安全で幸福を感じできる
「支え合い自治が息づく
まち・京都」

人間らしくいきい
家庭・地域で心豊かに

「真のワーク・ライフ
を実現するまち



行政経営の大綱

44
ページ

基本計画を進めていくための基盤となる
行政経営の方針



計画の推進

計画に掲げた政策の推進、
国や関係自治体との連携

「はばたけ未来へ！
京プラン」って
なんだろう？
次ページ以降で
内容を見ていこう！

07
ページ

にめざすべき京都の姿
な関連を持ち、循環している。

らしが
する
**炭素の
都」**

伝統と知恵を生かし、
豊かな生活を支える

**「環境と社会に貢献する
産業を育てるまち・京都」**

だれもがともに学び成長し、
未来を担う若者が育つ

「学びのまち・京都」

きと働き、
生活できる
**・バランス
・京都」**

45
ページ

点検、



重点戦略

11
ページ

京都の未来像を実現するための方策
市民ぐるみで、くらしやまちの変化を実現する
「低炭素・循環型まちづくり戦略」

ひとと公共交通を優先する
「歩いて楽しいまち・京都戦略」

歴史都市の品格と魅力が国内外のひとびとを魅了する
「歴史・文化都市創生戦略」

魅力ある地域資源と既存の都市インフラを生かす
「個性と活力あふれるまちづくり戦略」

世界が共感する
「旅の本質を追求する観光戦略」

京都の知恵や価値観を生かした
「新産業創造戦略」

夢と希望がもてる
「未来の担い手育成戦略」

子どもと親と地域の笑顔があふれる
「子どもを共に育む戦略」

仕事と家庭、社会貢献が調和できる
「真のワーク・ライフ・バランス戦略」

だれもが参加したくなる
「地域コミュニティ活性化戦略」

安心・安全と生きがいを実感できる
「いのちとくらしを守る戦略」



政策の体系

17
ページ

市全体の総合的な政策体系を簡潔に示すとともに、各局等
が策定する分野別計画や毎年度の運営方針の基本となるもの

うるおい 1 環境 2 人権・男女共同参画 3 青少年の成長と参加
4 市民生活とコミュニティ 5 市民生活の安全 6 文化 7 スポーツ

活性化 8 産業・商業 9 観光 10 農林業 11 大学 12 国際化

すこやか 13 子育て支援 14 障害者福祉 15 地域福祉 16 高齢者福祉
17 保健衛生・医療 18 学校教育 19 生涯学習

まち
づくり 20 歩くまち 21 土地利用と都市機能配置 22 景観 23 建築物
24 住宅 25 道と緑 26 消防・防災 27 くらしの水

京都市基本計画審議会委員名簿

46
ページ

はばたけ未来へ！ 京プラン(京都市基本計画)の策定体制

47
ページ

はばたけ未来へ！ 京プラン(京都市基本計画)策定までの取組

49
ページ

はばたけ未来へ！
京プランの構成

計画の位置付け

どんな計画なの？



平成23年度から10年間のまちづくりの基本となる計画なんだ。わたしたち市民と市役所が一緒にめざす京都の未来の姿と、そのための戦略を描いているんだよ。

- 京都市基本構想に基づく第2期の基本計画
(計画期間は平成23(2011)年度から10年間)
- 単なる「行政計画」ではなく、市民と行政が共に汗を流して協働する「共汗型計画」
- 政策の優先順位を明確にし、目標への筋道を示す「戦略的な計画」

京都市の総合計画の体系

都市理念(都市の理想像) **世界文化自由都市宣言**

市会の賛同を得て昭和53(1978)年10月15日宣言

市政の基本方針

京都市基本構想(グランドビジョン)

21世紀の京都のまちづくりの方針を理念的に示す長期構想

<平成13(2001)～平成37(2025)年>

地方自治法第2条に基づき市会の議決を得て平成11(1999)年12月17日策定

部門別
計画

京都市基本計画

基本構想の具体化のために全市的観点から取り組む主要な政策を示す計画

(第1期)

<平成13(2001)～平成22(2010)年>

はばたけ未来へ！京(みやこ)プラン (京都市基本計画)(第2期)

<平成23(2011)～平成32(2020)年度>
京都市会の議決に付すべき事件等に関する条例第2条に基づき市会の議決を得て平成22(2010)年12月10日策定

地域別
計画

各区基本計画

基本構想に基づく各区の個性を生かした魅力ある地域づくりの指針となる計画

(第1期)

<平成13(2001)～平成22(2010)年>

(第2期)

<平成23(2011)～平成32(2020)年度>
平成23(2011)年1月策定

実施計画

重点戦略及び行政経営の大綱を推進するための計画

分野別計画

政策分野ごとの取組を推進するための計画

計画の背景

京都の今は
どうなってるの？



人口減少や地球温暖化、グローバル化、
財政問題などの大きな課題があるの。
これをみんなで乗り越えていくよ。

とくに注目すべき社会経済情勢

人口減少と少子高齢化

● 減少局面に入った京都市人口

人口は、H22(2010)年の146.5万人からH32(2020)年には141～142万人と若干減少、H47(2035)年には127～130万人まで減少の見込み

● 今後も継続する少子化傾向

合計特殊出生率は、H17(2005)年の1.11からH20(2008)年に1.19までに回復したものの、今後も厳しい状況が続く見込み（全国1.37、京都府1.22）

● さらに進む高齢化と単身化

高齢化率は、H22(2010)年の23%からH32(2020)年には28%まで上昇の見込み。単身世帯は全世帯の40%（H22(2010)年）

● 人口減少を食い止める方策の展開

産業の振興をはじめ、豊かな学びや子育て環境の整備など、一層魅力ある都市として磨き上げる方策を展開することで、京都の人口減少を食い止めることが必要

● 少子高齢化を見通したパラダイムシフト

少子高齢化時代における人口動向を見通した社会経済体制やライフスタイルなど、さまざまな分野でのパラダイムシフト（既成概念の転換）が必要

地球温暖化の加速

● 低炭素社会に向けた世界の動向

温室効果ガスの排出量を、世界全体でH62(2050)年までに半減（先進国はH32(2020)年までに25%以上、H62(2050)年までに80%以上削減）させることが必要

● 先駆的な取組を進める京都市

京都市の温室効果ガス排出量は、基準年（H2(1990)年）と比較し、H20(2008)年には11.6%減少

● 市民・事業者と連携した低炭素型のまちづくり

京都の経済・社会構造の転換を促し、低炭素のまち京都を構築する政策展開や、市民ひとりひとりが危機感をもち、地域ぐるみで低炭素のまちづくりと産業を発展させることが重要

グローバル化の進展

● 密接に結びつく世界

交通の発達やICT（情報通信技術）の発展などにより、地球規模でひとやもの、情報がますます盛んに交流
世界各地の出来事が直接的に、都市、地域にも影響する流れが加速

● グローバル化する京都

文化芸術、経済、観光、学術・研究など、すべての政策分野で一層の国際化を図るとともに、京都の都市特性や潜在力を国際社会で生かすことが必要

低経済成長と厳しい京都市財政

● 厳しい日本の経済状況

国際競争力の低下、デフレ傾向の継続など日本の経済社会全体に構造的な課題

● 京都の産業構造の変化

生活様式の変化などにより、伝統産業などが減少する一方、サービス業や福祉産業などが成長

● 京都らしい新たな産業の創出

国際的な競争力をもつ産業への進化や新たな産業の創出・育成が必要

● 脆弱な京都市の財政基盤

市民ひとり当たりの市税収入が他の指定都市と比べて少なく、地方交付税に依存

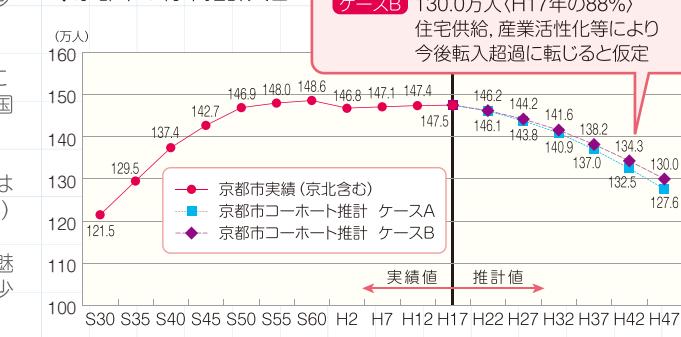
● さらに深刻さを増す財政状況

国における三位一体改革以降、地方交付税が削減される一方、少子高齢化の進展などにより、社会福祉関係経費をはじめとした義務的な経費は増加

● 厳しい見通しのなかでも、未来の京都づくりを着実に推進

京都の未来に責任をもつ財政の確立を図り、今後10年間で真に必要となる政策を実施することが必要

◆京都市の将来推計人口



資料:京都市(平成22年3月推計)コホート要因法による京都市独自推計

◆市税等の一般財源収入と社会福祉関係経費の推移

